

# あさがお



花言葉:「愛情の絆」「堅い結束」

## 特集

—海老名総合病院—

乳がん治療は患者の  
気持ちに寄り添いながら

AREA  
TOPIC

海老名総合病院  
脳卒中ケアユニット（SCU）を開設

表紙の写真

1973年、「救急こそが医療の原点」という志を持った若き4人の医師が、東埼玉総合病院を開院したところから私たちJMAグループがスタートしました。その想いは今も変わらず生き続けています。

(1983年 開院当時の海老名総合病院の様子)

詳しくは裏面へ!

アンケートに  
お答えいただいた方の中から

クオカード  
プレゼント



抽選で10名様



# 所属医師が増え、24時間診療体制は充実 患者のQOLを尊重して治療方針を検討します



医師数が増えたことで、救急も含めて安定して医療を提供。冠動脈カテーテル治療・検査の実施件数は約400件/年。さらに地域の先生方と連携して、年単位で患者の状況をフォローすることで再発を予防します。

## ベテランの知見と、若いバイタリティー

東埼玉総合病院の循環器内科は常勤医師4名と非常勤医師4名と手厚い診療体制になり、地域の幅広い医療ニーズに添えています。

「しばらく常勤医師2名の体制でしたが、医師数が増えたことで症例検討のカンファレンスは充実しています。毎週行っているカンファレンスでは、検査画像を供覧して、どのような治療方針にするのか話し合っています。担当医の判断だけでなく、学会のガイドラインに則り、循環器内科として検討しています」

当院の循環器内科長石川秀一は視野を広げて治療を行いやすくなったと言います。専修医も継続的に配属されており、ベテ

ランの知見と若手の行動力のバランスもよくなりました。

「診療内容は同じでも、常勤医師が2人体制のときは、治療方針についてお互いに相談してはいましたが、それぞれ担当する患者さんが決まっていました。それが、医師数が増えたことで、同じ患者さんを2人で受け持つことができるようになりました。チームとしてはまだ十分ではありませんが、若い専修医にとっては勉強になるし、我々も彼らから刺激を受けています」

## 時間が勝負の循環器内科 救急搬送は原則、受け入れる

医師の増加により、外来の予約枠も広がりました。また、救急や入院も安定して受け入れるようになりました。

「医師が増えてから、オンコールで呼ばれる負担がかなり軽減され、助かっています」  
循環器内科では、基本的には24時間体制でオンコールのシフトを組んでいます。夜間の救急対応を求められたときは、原則として患者さんをお断りしません。「自宅で突然胸が苦しくなった。心筋梗塞ではそういった患者さんが圧倒的に多いので、家族が直接電話をしてきたり、救急車を呼ぶことが多いですね」

ます。

心筋梗塞などは、再発を防ぐ二次予防が重要なので、自分で管理ができない患者さんについては訪問看護やホームヘルプサービスを活用するために、介護認定の申請をすすめることがあります。必要なときはソーシャルワーカーが患者さんやご家族を支援しています」

病状が安定した患者さんについては、ご紹介いただいた先生にお戻しします。その後も、病診連携は続きます。「当院で治療した患者さんについては8ヶ月から1年後、外来を受診してもらうようにしています」

心臓の超音波検査など、検査一式でフォロー。問題が見つかれば専門的な治療を行い、状態に変化が生じていなければ、かかりつけの診療所での受診を継続してもらいます」



患者様のご紹介に関しましてご不明な点は、地域連携課までご連絡ください。

東埼玉総合病院 地域連携課 TEL 0480-40-1318(直通) 埼玉県幸手市吉野517-5

2019年2月に導入した  
「X線循環器診断システム Alphenix INFX-8000C」



協力: キヤノンメディカルシステムズ株式会社

実際、当院での救急受け入れは増えていますが、その他の診療科も含めて、救急受け入れの体制が整ってきました。

## 患者のリスクとベネフィットを検討 あえてカテーテル治療をしない場合も

石川医師は心臓カテーテル検査と治療が専門です。狭心症や心筋梗塞における冠動脈ステント留置術などの、循環器内科における年間の冠動脈カテーテル治療は約130件、カテーテル検査は約270件を行っています。

「外来の診察を担当していない曜日は、カテーテルと病棟を回っています」

心筋梗塞のリスクファクターは、糖尿病や高血圧、脂質異常症。このほかに生活習慣や喫煙の影響もあります。好発年齢は60歳代から70歳代にかけてですが、80歳代以上の高齢患者も目立ちます。その多くがカテーテル治療の適用となります。

ところが、標準的な治療法として普及したステント留置術ですが、その弊害もあると石川医師は指摘します。

「ステント留置術を受けた患者は、生涯にわたって抗血小板薬を服薬しなければなりません。そうすると出血するリスクが高まります。消化管出血などが起こりやすくなります」

末梢血管の病変にステントを入れることと、服薬による影響について、家族背景なども含めて慎重に検討しています。そしてステント留置術が適切なのか、それとも服薬治療

が必要なのか判断します」

基幹病院とも連携しながら治療が行われています。

「外科的な治療を必要とする患者は、心臓血管外科のある基幹病院へ紹介します」

それほど患者数は多くありませんが、カテーテル治療が困難なため、心臓弁膜症手術や冠動脈バイパス手術が適用となった患者については基幹病院の心臓血管外科と連携して治療を行っています。

「診断をこちらでつけて、外科的な治療が必要だと判断した症例については基幹病院に紹介しています。そこで治療を終えた患者は当院に戻ってきて、経過観察を続けます」

## 地域での医療福祉連携で 在宅療養を支える

「地域の先生からの紹介については、緊急の場合はとにかく早く送って欲しい。時間が勝負ですから」

ほとんどの虚血性心疾患は当院で治療できます。緊急性のなさそうな患者についても、月曜から土曜日まで毎日、循環器内科の医師はいるのでいつでもご連絡ください。夕方以降もオンコール体制で対応しています。

電話で心電図の所見をお聞きして、すぐの受診が必要であるかの相談も受けています」

「患者さんを地域の先生方へお戻りするときは紹介状に、治療経過と合わせて、悪玉コレステロールや脂質をコントロールするときの参考値もお知らせするようにしてい



# 乳がん治療は患者の気持ちに寄り添いながら

医師2名の増員により手術件数の増えている乳腺外科では、JMA内連携、病病連携で乳がん標準治療を提供。患者さんのご希望を聞きながら、QOLの向上と治療の両立を目指しています。

## 乳腺外科の診療体制

これまでも外科で乳がんの治療は実施してきましたが、この度、乳腺外科に2名入職したことで、対応可能な手術件数が増えました。まずはガイドラインに則り、標準治療をきちんと行うことを心がけています。また、海老名総合病院・海老名メディカルプラザでは、連携して検査、診断、手術を行っています。当院には形成外科がありますので、ご希望の患者さんには乳房再建術を行うことも可能です。部分切除を行った後の放射線治療は、近隣の医療機関と協力しながら実施しています。

## 乳がん検診の受診率が気がかり

乳がんの発症は40代から60代にかけて増

とが多くあります。術後のフォローアップは、消化器がんであれば5年ほどですが、それが乳がんだと、基本的には10年間で標準です。なかには10年を経過しても外来受診を続ける方がいます。

最近ではACP(アドバンスケアプランニング)という言葉が広がっています。広い意味では緩和ケアの1つです。進行再発乳がんの場合、治療や経過などをあらかじめ理解しておいていただき、ご家族も含めて人生をどのようにプランニングしていくか。そのようなことを一緒に考えていきます。乳がんは経過観察の期間が長いので、昔からACPのような取り組みをしています。

抗がん剤治療は、病気と戦うイメージになってしまいがちです。それでもうまく付き合えるように、患者さんにはお話しします。

## なぜ乳腺外科医になったのか？

私は、もともと消化器外科医でした。20年以上も前のことです。当時勤務していた病院に乳腺の専門医がおらず、上司からのすすめもあって乳腺の治療に取り組むはじめました。

乳がんは、よほど進行しているときは別ですが、消化器系のがんにあるような切羽詰まった感じがありません。確定診断がついて、どのような治療をしたいのか決めていくときも、患者さんのなかには自ら探してきた有名病院での治療を希望する人もいます。乳腺外科での診療は消化

加します。若い方の病気というイメージを持たれがちですが、高齢の患者さんも目立つようになってきました。介護施設に入所している90代の方を手術する場合もあります。

今、とても気がかりなことは、海老名地区における乳がん検診の10%台という低い受診率です。「定期健診を一度も受けたことがない」「しこりや違和感があるから受診した」という未検診ケースが目立ちます。生活や仕事が忙しいという事情もあるのでしょうが、もっと多くの方に受診していただきたいと思えます。多くの乳がんは基本的に痛みなどの症状がありませんが、乳房痛がないからといって安心はできません。早い段階で病気が見つければ治る可能性が高いのです。

「乳がん検診受診率」  
 全国平均44.9%(平成28年度国民生活基礎調査)  
 海老名市17.3%(平成27年度神奈川県資料)

## 地域の先生方と未検診の問題に取り組みたい

乳房に何らかの症状がある患者さんはぜひご紹介ください。そして何も症状がない方には地域の乳がん検診を受けるように勧めてください。

乳房は自分で触れたり見たりすることができ、点が、内臓との大きな違いです。月1度触るだけで

器外科と違うこととして、当初は戸惑いを感じたこともありました。

## 患者の不安に寄り添う

乳がんの治療では、手術後に放射線治療を一定期間、連日で行うことがあります。患者さんは苦勞しながら通院しています。仕事や子育てとの両立支援も大切です。仕事をして家庭を支えていく、子育てしているなど、しなければならぬことがある年代の患者さんも多いわけです。夫が病気になれば、長期的にはいろいろな問題が出てくるかもしれません。けれども、妻が病気になればその日の生活から困ってしまう。掃除や洗濯、食事をどうするのか。そこから悩みが始まります。そうした患者さんを少しでもサポートしていきたいと思えます。



上島医師・國友医師

## 蛍光法を用いた乳がんセンチネルリンパ節生検

～赤外蛍光による新しいNavigation Surgeryを導入～

リンパ節に入ったがん細胞が最初にたどり着くセンチネルリンパ節を可視化するNavigation Surgeryです。転移の可能性が高いリンパ節を特定することができます。そのため、転移の有無にかかわらず広範囲にリンパ節切除する必要がなくなり、合併症の抑えることができ、術後の患者のQOLが向上します。



協力:浜松ホトニクス(pde-neo 赤外観察カメラ)

も、あれつという気づきがある可能性があります。そういうことが習慣になるといいですね。

そして乳がん検診で要精査となった方は、海老名メディカルプラザの乳腺外科で受診予約を受け付けています。

## センチタイプな病気だからこそ、ご家族と一緒に治療する

患者さんの希望を聞いていねいにお聞きしながら治療することを心がけています。確定診断がついたときは、乳がんという言葉を使わなければなりません。患者さんやご家族にはとってはショックです。だから一度にいろいろな話をするのではなく、少しずつ理解の度合いを高めていくようにします。そしてご家族にも来ていただいて、患者さんと一緒に同じ説明を聞いてもらいます。

基本的に乳がんを告知せずに治療することはありません。認知症があったりすると別ですが、患者さんと一緒に同じ話を聞くことによって病気のことをご家族で共有できるようになります。ご家族や旦那さんだけの時間に来てもらいたい説明すると、患者さんは「私には話せないことがあるのではないか。」と不安になります。だから悪いことも一緒に聞いてもらったほうが、その後の治療がスムーズです。

## 病気と共に歩む人生を考えましょう

乳がんは、治療や観察期間が長くなるこ

患者様のご紹介につきましてご不明な点は、地域連携課までご連絡ください。

海老名総合病院 地域連携課 TEL 046-234-6719(直通) 神奈川県海老名市河原口1320



# 子どもたちの育ちを見つめる



9月から医師2名体制になり、感染症、アレルギー疾患、心身症、メンタルケアなど、多様な医療・保健サービスを提供できるようになりました。下田メディカルセンター小児科の田中医師に、小児医療過疎のこの地域において、地域で育つ子どもたちの健康を支えていく想いを聞きました。

## 社会人経験から医療の道を志す

大学を卒業してから5年間、エンジニアとして働いていました。そのころに医師を目指している友人の姿を見て、自分も困っている人々を助ける職業の医師になりたいと考えるようになりました。

## 目標は心のケアができる小児科医

産婦人科医になろうと考えましたが男性医師がとて少ないことが分かり、生まれてきた子どものケアができる小児科医を目指すことにしました。

医師になって最初に勤務した大規模な研修病院には、重症心身障害児施設が併設されていたこともあって、そういった子どもたちを診る機会が多くなりました。

会がとて多くありました。

## 重症心身障害児医療から小児救急医療まで小児科の地域医療

昨年8月から非常勤として下田メディカルセンターの救急外来を担当してきました。その時から、当院は小児患者が多いという印象がありました。

海遊びの観光客が多い時期は熱中症やクラゲに刺されたなどで救急外来を受診する小児が目立ちます。

3月からは非常勤として小児科を担当しています。この地域は小児を診ることができ医療機関が多くない地域です。そのため当院の小児科では様々な患児を診ています。

また、下田メディカルセンターは賀茂医療圏の公的病院であり、最新のエビデンスに基づいた偏らない医療を目指しています。

## 地域ぐるみの生活と子育て

美しい自然の下田は、親戚など家族の助け合いがある街だと思います。叔母さんなど、親戚の付き添いで受診する子どもも多くいます。以前に勤務していた東京郊外は核家族が多かったけれど、下田は親戚同士の結びつきが強いですね。

そして、とても多産な街です。子どもたちは家族や親戚に見守られながら、兄弟・姉妹関係のなかで育っています。下田は子育てするにはとても良い環境です。

## 小児医療をこの地域で完結させたい

子育てしやすい下田ですが、この地域で小児を診ている医療機関が少ないという課題があります。だからこそ下田メディカルセンターではしっかりと診ていきたい。

これは病院として取り組まなければならない課題ですが、重症患者の対応や夜間救急は今後のテーマです。ここで診ることができないと次に近い医療機関は伊東市民病院。さらに順天堂大学病院を受診するなら、冬場は路面凍結も心配な天城越えになります。この地域で子どもたちを診ていけるようにしたいですね。

## 病児保育や心理的なケアを大切にします

当院は「かるがも病児保育室」を併設しています。下田市唯一の病児保育室として平成29年に開設されて以来、仕事と子育てを両立する家庭を支えてきました。

もう一つ、発達障害などの心理的な支援も続けています。私は重症心身障害児や発達障害児を多く診てきた経験があります。また2名の臨床心理士が発達や心理的アプローチ対応をしています。

下田でも不登校など心理的なカウンセリングが必要な子どもが増えています。親戚づきあいや地域ぐるみの子育ては下田の良い面ですが、その一方で、そういった関係にうまく馴染めない



小児科 医師 田中 健 Takeshi Tanaka

2009年、日本医科大学卒業。公立福生病院、市中の地域周産期母子医療センター、重症心身障害児者施設を併設した2次救急病院を経て、2018年8月より下田メディカルセンター救急外来。2019年3月からは常勤医として、小児科を担当。



小児科診察室

## 小児科の入院治療

当院には小児病棟はありませんが、今年度から入院もできるだけお受けするようにしています。これまでに重症心身障害児の入院ケースもありました。病棟看護師の体制も徐々に整えて、当院で完結できるようにしていきたいですね。今は、一か月に数名の小児患者が入院しています。

重症の子どもが入院になったときや救急対応はオンコールで連絡を受けています。また、夜間救急の対応があるときも看護師からの連絡で病院に駆けつけますから、ご相談ください。

## 病病連携で小児科を充実

土曜日の小児外来も再開しました。親の仕事や学校のある平日は受診できないという患者さんに来ていただいています。

また、9月からは育休中だった土肥医師が復帰して、小児科は医師2名体制になり、その分、夜間対応もしやすくなりました。複数の小児科医がいることで医療の質も向上します。

水曜日は順天堂大学病院からの派遣医が担当するため、私は入院患児のフォローをしています。

また下田メディカルセンターで対応が難しい患児は順天堂大学病院などへ紹介する病病連携が整っています。

コンバクトな病院ですが、他科の医師とも相談しながら、総合的に小児医療を提供しています。

## ツーリズムと医療の役割

下田は観光の街です。日本中の各都市からは当然ですが、台湾や東南アジア、欧米やロシアなどからの観光客を診る機会が多いです。観光客の受診はその1回限りのお付き合いになってしまふことがほとんどですが、その患者さんに合った医療が提供できるように心がけています。

熱中症や肺炎、気管支炎、胃腸炎、また蜂やクラゲに刺された、痙攣が起きたと急患で来る方や、夜間に受診されるケースもあります。

そうした患者さんに、下田に来て良かったと思ってもらえるようなフォローができたなら嬉しいですし、街の魅力にもつながると思います。

英語でコミュニケーションする機会は、東京で勤務していた時よりずっと多くなりました。

患者様のご紹介に関しましてご不明な点は、地域医療連携室までご連絡ください。

下田メディカルセンター 地域医療連携室 TEL 0558-25-3535(直通) 静岡県下田市6-4-10



「JMAグループTOPICS」では、グループ内におけるイベントや取り組み・ニュースなどをご紹介します。

## JMAグループ

### 1 2019年6月2日 [会場] パシフィコ横浜 「JMAグループフォーラム2019」を開催

グループ  
初!

6月2日、JMAグループでは、パシフィコ横浜において、事業報告会、JMAグループアワード(施設・事業所による事例発表会)、懇親会を組み合わせ「JMAグループフォーラム2019」を開催しました。最高経営責任者、副本部長、埼玉・神奈川・静岡の各エリア長の事業報告のほか、各エリアの抱える課題や今後の構想などを共有しました。

「JMAグループアワード」と名付けたプログラムでは、施設・事業所から選出された18事例の中から、特に優れた3事例の代表者がステージ発表し、当日の参加者による投票によって「最優秀賞」が選ばれました。

これまでエリア毎に行っていた内容を、グループ職員400名が集まる場で執り行うことで、いま私たちに必要な「連携・一体化」を再認識する機会となりました。参加職員からは、「グループの一員として働いていると実感した」との声も聞かれました。

今後もJMAグループの持つ「多様性」と「連携・一体化」を活かし、地域包括ケアを担う組織を目指してまいります。



### 2 特別養護老人ホーム和心(なごみ) 外国人技能実習生の受け入れをスタート



「外国人技能実習制度」とは、発展途上国の若者を受け入れ、実践的な技能・知識を教え、帰国後、母国の経済発展に役立ててもらうことを目的とした国際協力を推進する制度です。外国人技能実習生が日本において実習実施者と雇用関係を結び、母国において修得が困難な技能等の修得・習熟・熟達を図るものであり、滞在期間は最長5年と定められています。

この度、JMAグループでは、技能実習生を介護スタッフとして受け入れることにいたしました。受け入れにあたっては、準備期間に約1年を要し、ミャンマーへ赴いて現地面接もしました。一方、実習生には、日本語能力も要件の一つとなっており、日本へ渡るまでの間に日本語能力試験のN4級合格が課せられています。

2019年7月、JMAグループにおける外国人技能実習生の第一期生として、ミャンマー人2名が特別養護老人ホーム 和心(神奈川県海老名市)へ着任いたしました。清掃などの家事援助から始め、2か月が経った今では、食事、トイレなどの生活の手助けもできるようになりました。日々新しいことを学び、着実に一人で出来るが増えていきます。施設スタッフと良好な関係が築けているだけでなく、利用者様にも可愛がっていただき、「仕事が楽しい!」と目を輝かせながら、働いています。

技能実習を終えてミャンマーへ帰国する際には、本人たちはこれから進むミャンマーの高齢化に対して、介護の仕事で力を発揮したいという想いを抱えています。私たちは、外国人技能実習生とともに、お互いを補完し合えるような関係を築いていきたいと考えています。

JMAグループでは、2020年1月には第二期生の着任を予定しています。今後も介護施設を中心に、定期的な受け入れを進めてまいります。



特別養護老人ホーム和心(神奈川県海老名市)



社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス

### 3 海老名総合病院・座間総合病院 中国との医療交流

座間総合病院 人工関節・リウマチセンターは、1997年に海老名総合病院(神奈川県海老名市)で開設した日本初の人工関節専門施設です。2016年の座間総合病院(神奈川県座間市)開院に伴い移転し、開設から22年、着実に実績を重ねています。

2019年7月、縁あって廈門大学附属福州第二病院(中国福建省)から招待を受け、病院を見学させていただきました。また、翌日に行われた「2019塔亭整形外科フォーラム」では、座間総合病院 渡病院



長、近藤人工関節・リウマチセンター長、リハビリテーション科湯田統括科長によって人工股関節置換術の実績やリハビリテ



ションについて発表する機会をいただきました。

8月には、海老名総合病院・座間総合病院リハビリテーション科に、中日友好病院(中国北京)の方がお越しになり、病院見学のあと、意見交換をすることが出来ました。

両院との交流を通じて、日本と中国においては医療制度や医療従事者の教育カリキュラム、社会的な背景に多くの違いがあるものの、目指す治療は同じだと気付かされました。JMAグループでは、今後も医療交流を通してお互いに刺激を受け、医療の質の向上へ繋げていけたらと考えています。

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス

### 4 ベンリーJMA海老名中新田店 NEW OPEN!

2019年4月、JMAによる“便利サービスのプロ集団”の「ベンリーJMA海老名中新田店」がオープンしました。

ベンリーでは、お掃除、リフォーム、水廻り修理、お庭の手入れ、買い物代行、電球交換から結婚式参列代行まで、地域の皆さまのお困りごと、介護保険では届かない生活支援サービス(各種代行サービス)を提供いたします。これまでの医療・介護・福祉に加え、「ベンリー」による生活支援まで広がることで、JMAグループの目指す「ワンストップかつシームレスなサービス提供」に繋がっていきます。

特に65歳以上の方からは「去年まで出来ていた庭木の手入れや掃除が大変になって、ベンリーに頼めると助かる」といったお声を頂きました。ベンリーJMA海老名中新田店では、介護福祉士・福祉用具専門相談員・ヘルパー2級資格者も

所属しています。生活視点で地域の皆様の力になれるよう、体制を整え地域貢献を推進しています。「どこに頼めばいいかわからない…」そんなお困りごとに迅速に対応いたします。



社会福祉法人ケアネット

### 5 特別養護老人ホーム陽だまり 「かながわ高齢者福祉研究大会」にて優秀賞を受賞

特別養護老人ホーム陽だまり(神奈川県海老名市)では、2019年7月に「第18回かながわ高齢者福祉研究大会」に出場し、介護技術発表部門において、見事、優秀賞に選ばれました。

同大会は、高齢者福祉施設に従事する職員による実践活動や福祉のプロを志す学生の研究活動等、神奈川県内福祉の最前線を社会に発信することを目的に開催されており、これまで行われてきた研究発表は2,345題に及びます。

陽だまりでは、2年連続、優秀賞を受賞しており、今年で3連覇のプレッシャーがかかる参加となりました。今年は、昨年までの移乗技術に「ユマニチュード」という認知症ケアの手法を加えて発表を行いました。「最高の介護を見せたい!」との思いから発表ギリギリまで検討に検討を重ね、当日は最高のパフォーマンスで、見事“優秀賞”を頂くことができました。参加を通じて他施設の介護技術にも触れ、多くを吸収することができる大会となりました。



3年連続!

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス

### 6 2019年8月1日・2日 「第69回 日本病院学会」JMAより4組が発表

8月1、2日、札幌市で行われた「第69回 日本病院学会」では、JMAより4組が参加し、一般口演・ポスター部門で成果発表をしました。医療の取り巻く環境は日々変化しており、私たちもそれに応じて業務を突き詰め、変化していく必要があります。こうした学会発表を通じて、人材の育成につなげたり他施設からの学びを得るだけでなく、JMAの活動を知っていただく機会にしていけたらと思っています。



[会場] 札幌コンベンションセンター

発表内容

- 【海老名総合病院】
  - RSTの立ち上げ  
～プロセスと今後の課題～
  - DPC情報を活用した入院期間の適正化
- 【社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス】
  - 地域住民の生活を支える保険外サービスの展開  
～生活支援サービス「ベンリーフランチャイズ」の事業化について～
- 【介護老人保健施設コスモス】
  - 職員のミスに起因する事故を減らせ!  
～介護サービス質向上を目指して～



近隣地域のみならず、神奈川県央地区全体に専門的な脳卒中急性期診療を提供することを目的とし、この度海老名総合病院では、脳卒中ケアユニット(SCU)を開設することとなりました。近年、本邦でも脳梗塞超急性期に血栓溶解療法や経皮的血栓回収療法が導入され、高いエビデンスが得られ、徐々にその治療適応が拡大されつつあります。当院においてもこれらの治療件数の増加は顕著であり、専門的に対応できる病床の整備は急務でありました。

これまで当院では、地域の医療機関や救急隊からの要請に対し、脳卒中患者を24時間365日受け入れる体制を維持するとともに、リハビリテーションに関しても土日祝日なく365日体制で提供する体制をとっており、脳卒中診療に力を入れてきました。SCUの設置により脳卒中超急性期医療の質を上げ、脳卒中診療体制の更なる向上を目指していきたいと考えております。

### 体制について

SCU病床数	専用病床3床(3対1看護基準適応病棟)
スタッフ	脳神経外科部長(小林智範)始め常勤専任医師5名、 専従看護師、専任リハビリテーション療法士、 メディカルソーシャルワーカーの多職種医療チーム
SCU医療機器	MRI 2台、CT 2台、脳血管撮影装置1台(24時間稼働)

### さいごに

SCUを開設し、脳卒中診療を専門病棟で行うことは、海老名総合病院が地域医療に貢献することに繋がると確信しております。患者様の健康のためにスタッフ一丸となり業務にあたりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 脳卒中ケアユニット(SCU)とは

SCUとは、急性期の脳血管障害(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)の患者様を受け入れる専用の病棟です。脳卒中の専門知識を持つ医師、看護師、リハビリテーション療法士らの多職種専門チームにより、脳卒中を発症早期から24時間体制で集中的に治療します。SCUで治療することにより、症状の早期回復、入院期間の短縮、自宅への退院率の増加、さらには重症患者の死亡率の低下などが得られ、長期的な日常生活能力や生活の質(QOL)の向上を図れることが明らかになっており、脳卒中治療ガイドラインにおいても強く推奨されている診療体制です。



## 広報誌「あさがお」アンケート

アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で10名様にクオカードをお贈りいたします。ぜひご応募ください。

- Q1. 今号の感想を教えてください。(選択肢)
- Q2. どの記事に興味を持ちましたか?(選択肢)
- Q3. JMAグループへの理解は深まりましたか?(選択肢)
- Q4. どのような内容が知りたいですか?(自由記入)
- Q5. その他、ご意見ご感想をお聞かせください。(自由記入)

**応募方法** 以下URLのフォームからアンケートにお答えください。  
また、率直なご意見・ご要望をお聞かせください。

**受付期間** 2019年9月25日(水)~11月30日(土)

**URL** <https://goo.gl/DMVGo2>

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

ケータイ・スマホの方は  
こちらからアクセス!

